

第7回バイオ関連化学シンポジウム

主催：日本化学会 生体機能関連化学部会、バイオテクノロジー部会、生体機能関連化学・バイオテクノロジーディビジョン、フロンティア生命化学研究会、ホスト・ゲスト・超分子化学研究会

共催：日本薬学会、高分子学会、電気化学会、名古屋大学リーディングプログラム (IGER)、名古屋大学大学院工学研究科

協賛：有機合成化学協会

日時：平成 25 年 9 月 27 日（金）～29 日（日）

会場：名古屋大学豊田講堂・野依記念学術交流館

上記シンポジウムにてバイオデバイステクノロジー社製 DEP-Chip および BDTminiSTAT100 を用いた研究が 3 演題発表されました。要旨集に掲載された演題は以下の通りです。

1) 携帯型の迅速生菌数センサーの開発

有限会社バイオデバイステクノロジー¹、株式会社ゲイト²、道畠さゆ美¹、竹山駿平²、山本貴志²、牛島ひろみ¹ p 189、2P-C-039

2) 茶葉中カテキンの電気化学的検出マイクロチップ

大阪大学大学院工学研究科¹、食品総合研究所²、鄭 芸¹、山口佳則¹、前田一山本万里²、民谷栄一¹ p 190、2P-C-041

3) 小型電気化学測定装置 (BDTminiSTAT100) を用いた残留農薬の検出

岡山理科大学大学院工学研究科¹、大阪大学大学院工学研究科²、荻堂 裕¹、酒井亜希¹、村橋瑞穂²、井上裕毅²、斉藤真人²、民谷栄一²、宮原敏郎¹、永谷尚紀¹ p 44、2B-03